



相馬あくいるたわしの会 ニュース 1号

2012年5月8日発行 連絡先：板東あけみ svcaban@cg8.so-net.ne.jp

相馬遊楽応援団のブログ：「走馬会」と入れて検索「千里の道も一歩から」

巻頭言

福島県 相馬遊楽応援団 代表 小幡広宣



2011年3月11日、私の住んでいる地区もあの大震災・大津波により被災しました。相馬市内でも多くの方が住む家を失い、多くの方が命を落とされました。震災翌日、自宅のあった場所へ行ってみると津波によって殆どの建物が跡形もなく流されている中、私の住んでいた家だけがポツンとその形をとどめていました。

その風景を見た時、きっと神様が私に『お前が動け！』と言われたように感じ、以来微力ながら地域の再生に向け市民ができることを探し活動を続けてまいりました。ただただがむしゃらに活動を続けて1年、一方的に与える支援への疑問を感じ始め、ボランティアや支援は立ち上がろうとしている人に手を貸すことではないかと思いはじめていました。そんな時、震災当初からご支援頂いていた板東さんから被災して職を失ったご高齢の方々に『アクリルたわし』を製作してもらい、販売してみてはどうかと提案がありました。

相馬市内の被災された方の現状としましては、沿岸部には漁業で生計を立てていた方が多く、特に高齢の女性は新たな就職先を見つけるのが困難な状況でした。震災前は朝早くから船を迎え魚の選別などをしていた働き者だったおばちゃん・おばあちゃんは、津波によって移動手段であった車やバイクさえも失い、何の生甲斐もなく仮設住宅にこもりきりで1年近く生活している方が多くいらっしゃいました。その方々全員をカバーし根本的な雇用対策とはならないまでも、できる人間がそれぞれ『できることをできる範囲で』やっていく事、まずは行動を起こすことが大切と思い、この提案を受けました。

活動を開始し、全国の皆様方からの様々な形の後方支援を受けようやく形ができ始めてきたところであります。この『被災者によるアクリルたわしの製作販売』は、そのたわし1個1個全てにそれを編んだ編み手さんが書かれた一言メッセージが添えられているのが特徴です。それを読んでいただくと日に日に編み手の皆さんに明るさ、感謝の気持ちが戻ってきているのを感じて頂くことができます。そしてこの事業は、単に被災者の自立支援という意味合いだけではなく、購入いただいた方々に何かしら感じて頂き、この大震災の記憶を風化させず関心を持ち続けて頂くことで、全国各地の方々のそれぞれの地域での防災意識の向上へも繋がってくればという想いでおります。

この大震災で相馬市では458名の方が亡くなり、東北全体では2万人を超える方が亡くなりました。我々はこの犠牲と教訓を無駄にせず、今現在の人と人との希薄な関係と物にあふれた生活に疑問を感じ、被災地の住民同士はもちろん被災地の人間と外の人間が繋がることによって、古き良き日本人の『お互い様』、『持ちつ持たれつ』の心を取り戻すきっかけにできたらと思っております。

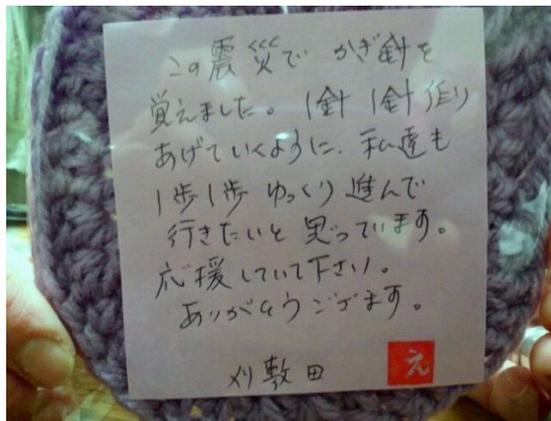
もちろん全国の皆様からご協力を頂かなければ成り立たない事業であることは言うまでもありません

が、単に物を作って買ってもらうのではなく、編み手の皆さんや私達がそこに情報や思いを込め伝えることで、辛く悲しい経験を次の災害に備える学びに変えていきたいと願っていることをご理解いただければありがたいです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

「あくりるたわし」は「希望」のたわし 東京都 島田療育センターはちおうじ 小沢浩

「ささやかやけれど福島の皆様への気持ちを行動に移すためにこんなことを始めました。少しでもご協力をいただければありがたいです。」板東さんからこのメールが届いたのは、東日本大震災からちょうど1年がたったときのことでした。

添付のファイルには、「あくりるたわし」の宣伝ポスターがありました。下欄には「作っておられる方々の状態や思い」があり、そこには魚の選別ができなくなり仕事がなくなってしまったこと、津波にのまれて腕を骨折しその後乳がんにもかかり手術したこと、新築した家と船を流され家と船のローンだけが残ってしまったことなど震災でのさまざまな出来事がつづられていました。「あくりるたわし」の編み手さんはほとんど編み物の経験がありません。最初は何回も編み方を聞きに来て、1カ月かかってやっと仕上げました。「応援してください」初めてのメッセージカードの言葉です。一つ穴が開いたたわし。お世



辞にも上手とはいえません。しかしどん底から立ち上がろうとしている編み手さんの姿に、小幡さんは涙しました。活動を支えている小幡さんも家を無くしました。ほとんどの家が津波で流され土台だけの中、ぼろぼろになりながら残った家。小幡さんはぼつんと立っている我が家を見て、立ち上がる勇気ももらいました。「あくりるたわし」は「希望」の「たわし」です。－「希望」を多くの人につなげる－「相馬あくりるたわしの会」の役割です。さあ、我々も立ち上がりましょう！このメッセージとともに！

「この震災でかぎ針を覚えました。1針1針作り上げていくように、私達も1歩1歩ゆっくり進んで行きたいと思っています。応援していて下さい。ありがとうございます。刈敷田」

皆様、この度この事業を主宰されている相馬遊楽応援団の小幡広宣さんや編み手の皆様と、「あくりるたわし」を買ってくださる日本各地の皆様とをつなぐ情報ニュースを発行することになりました。ニュースの発行は原稿が集まれば発行する不定期発行になります。このニュースは編み手の皆様にもお届けして読んでいただきますので、たわしをはじめとする商品を買われてのご感想(使い心地、このような使い方をしていきます、メッセージに対する感想など)も、どんどんお寄せ下さい。ご投稿の場合は、原則居住都道府県名とお名前を掲載させていただきます。尚、この会の発足にあたって固有名詞的に「あくりるたわし」と表記をしております。ご投稿・ご愛読いただければ幸いです。

京都府 板東あけみ